

先輩職員インタビュー

被害者援護業務

本部 被害者援護部 療護センターG チーフ

2008年入構



世界に類を見ない重度後遺障害者のための専門病院

ー入構の決め手は何ですか。

ナスバに入った決め手は、交通事故の被害者を支える存在だからです。

私は大学のゼミで交通事故に関する判例研究を行っていました。判例には赤裸々に事故の内容が綴られています。様々な判例を読み込むうちに、交通事故の悲惨さ、事故後の苦しみなどをまざまざと感じ、交通事故で辛い思いをしている方に私が出来ることはないのかと考えるようになりました。そんなときにナスバの存在を知り、この組織で頑張りたいと思いました。

ー業務の役割を教えてください。

ナスバでは、交通事故に遭い脳に重度の後遺障害を負われた方を対象に、手厚い治療と看護、リハビリテーションを行う専門病院である療護センターを全国に4箇所、療護センターに準じた治療等を行う委託病床を8箇所、運営・設置しています。私が所属している療護センターグループでは、この療護センターや委託病床の運営に関わるお仕事をしています。

その中でも私が携わっているのは、療護センターで使用する医療機器の調達、予算管理、療護センターや委託病床への監査などです。病院の運営や医療機器などは馴染みがないものが多く、制度や仕組みを理解することは難しいです。しかし、今まで知ることがなかったものについて理解を深めることが出来るという楽しさがあります。



寄り添うナスバ 頼れるナスバ

ーやりがいは何ですか。

この部署でのやりがいは、月並みではありますが療護センターのスタッフの方から感謝のお言葉をいただいたときです。自分の仕事が病院のスタッフの環境を改善し、そのことによって入院患者の方へよりよいサービスが提供されていると感じたときにやりがいを感じています。やってきたことが誰かの役に立っているということを感じたときに頑張ってきて良かったと達成感を感じます。

ー職場の雰囲気やよいところはありますか。

現在、国のモデル事業として脊髄損傷者のための専門病院の設立や老朽化してきた療護センターの建て替えなど、大きな課題が多くある部署です。一人一人業務量も多く大変ではありますが、皆が責任感を持ち大きな仕事に打ち込み、結果を出しているところがこの部署の良いところだと思います。

自分の「可能性」と「夢」を見つめて



ー将来の目標を教えてください。

ナスバの仕事は、事故防止、被害者支援、アセスメントと多岐にわたります。私は入構以降、積極的に資格を取得し様々な業務の経験を積んできました。今は、本部にしかない療護センターに関わる部署で仕事が出ています。この経験を活かし、どこの部署に行ったとしても全体の業務を意識した仕事をしていきたいと考えています。



ー最後に学生の方に向けてメッセージをお願いします。

ナスバには、社会貢献をしたいと思って入ってこられる方が多い印象を受けます。ナスバの強みは、被害者支援と自動車事故防止を通して、安全・安心・快適な社会作りに貢献する事業を行っていることです。これは、利益を出さなくてはいけない民間企業ではなかなか行うことが難しい事業だと思います。一緒にクルマに関わる方々に寄り添い、支える仕事をしてみませんか。皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

自己紹介

休暇は、旅行をしています。知らない土地に行くのは躊躇しがちでしたが、ナスバでは全都道府県に事務所があります。異動で各地を巡るうちに、今では旅行が趣味になりました。今は全ての都道府県に1度は行くことを目標に、計画を立てて旅をしています。



先輩職員インタビュー

被害者援護業務

広島主管支所 チーフ

2011年入構



ナスバでしかできない業務を行う”誇り”を胸に

ー入構の決め手は何ですか。



私は高校生3年生の頃、親友を交通事故で亡くしたことがきっかけで、“悲惨な事故で悲しむ人を1人でも無くしていきたい”と強く思うようになりました。後の就職活動でも、この思いを実現できる仕事がしたいと探していたところ、事故の未然防止から事故被害者の支援までを総合的に行っているナスバと出会い、入構を志望しました。

ー業務の役割を教えてください。

ナスバは国土交通省管轄の独立行政法人で、自動車事故に関わる幅広い業務を行っています。

その中でも、私は「被害者援護業務」に長く携わっていることから、ここでご紹介したいと思います。

① 重度の障害を負われた方々に対する支援

事故によって重い障害を負われた方々に対して経済的及び精神的な支援を行っています。

経済的支援とは、その方が介護に必要な費用を支給する業務です。車いす等の介護用品の購入費やヘルパーさんの利用料など、多くの費用を支給することになりますので、正確さが求められます。

続いて、精神的支援とは、その方のご家庭へ伺い、健康状態の確認や介護の情報提供を行ったり、意見交換を行っていただく交流会等を企画する業務です。

② 交通遺児の支援

事故によって保護者を失ったお子さまに対して経済的及び精神的な支援を行っています。

突如、一家の大黒柱を失ったご家庭は経済的に苦しくなりますので、経済的な支援として、生活資金の無利子貸付を行っています。また、お金をお貸しするだけではなく、精神的支援として交流会や集い（旅行会）等を企画しています。

①、②ともに共通することですが、被害者の方々は、それぞれ身体の症状や家庭環境等が全く異なるため、一人一人に応じたきめ細やかな対応が求められます。それがこの業務の難しさであると同時にスキルの見せ所だと思います。

ーやりがいは何ですか。

上述しましたとおり、被害者援護業務は一人一人に応じたきめ細やかな対応が求められるため、とても難しい業務だと思います。しかしながら、被害者の方々から「ありがとう」という言葉をいただくことが多く、とてもやりがいを感じる業務でもあります。

また、この業務を通して色々な方と出会うことができます。事故後、車いす生活を余儀なくされた方がスポーツを楽しんでいたたり、手が不自由になっても口で筆をくわえて絵を描いていたたり、障害を負っても人生を前向きに過ごされている姿に元気をもらっています。

—職場の雰囲気やよいところはなんですか。

職場の皆、共通して”事故で悲しむ人を1人でも無くしていきたい” という思いを持って働いています。
同じ思いを持つ仲間と働けていることをとても幸せに感じています。

自分の「可能性」と「夢」を見つめて



—将来の目標を教えてください。

周囲に良い影響を与えられる人物になりたいと思っています。

物には可燃性、不燃性、自燃性のものがあるように、人間のタイプにも火を近づけると燃え上がる可燃性の人、火を近づけても燃えない不燃性の人、自分でカッコと燃え上がる自燃性の人がいると言われています。何か大きなことを成し遂げるためには、自ら燃える情熱を持つ、すなわち自然性であることが求められますが、私はさらに一歩進んで、人の心に点火し、周囲を燃え上がらせて、大きなことを成し遂げていける「点火型」の人間になりたいと考えています。

—最後に学生の方に向けてメッセージをお願いします。



ナスバは公共性の高い組織ですので、より良い社会の実現に向けて貢献したいと考える方にとっては、とても適した職場だと思います。特に被害者援護は、公的な福祉制度の下、まさに「ナスバでしかできない業務」を行っています。

単純な利益追求の業務ではなく、こうした大義ある業務を行う”誇り”と”責任”を持てるのはナスバならではのと思いますので、ぜひ就職先の一社として考えていただければ幸いです。

自己紹介

所属：広島主管支所

出身地：神奈川県

入構6年目までは安全指導業務を担当、その後、被害者援護業務を6年担当し、今年度からは総務・経理業務を主に担当しています。

プライベートでは、3児の子どもの父親として育児をしています。



先輩職員インタビュー

被害者援護業務

東京主管支所 スタッフ

2019年入構



ナスバにしかできない被害者援護業務

—入構の決め手は何ですか。

「被害者支援と自動車事故防止を通して、安全・安心・快適な社会作りに貢献する」という使命です。

就職活動時、「人や社会の役に立つこと」を軸にしていたところ、独立行政法人という組織を知りました。また、そこで被害者支援という大義ある業務を行っているナスバを知り、自分もその一員となり、人や社会に貢献していきたいと思い、志望しました。



—業務の役割を教えてください。

現在、東京主管支所において被害者援護業務に携わっております。被害者援護業務は大きく分けて2つあります。

①自動車事故により重度の後遺障害を負われた方への経済的支援及び精神的支援

②交通遺児等に対する育成資金の無利子貸付

その中でも、わたしは主に①を担当しています。

経済的支援として、介護料（重度後遺障害で常時・随時介護が必要な方への、介護に係る費用）の支給業務を行ったり、精神的支援として、介護料受給者の方のご自宅等へ訪問し、現状やお困り事等をお伺いしたり、情報や意見交換の場として交流会を開催したりしています。



寄り添うナスバ 頼れるナスバ

—やりがいは何ですか。

自動車事故による死亡者数は年々減少していますが、重度の後遺障害が残られる方は横ばい傾向です。それは、一命は取り留めたものの、常時又は随時介護が必要になり、今まで通りの生活が送れなくなった方は減っていないということです。ナスバはそのような方やそのご家族に対し、経済的、精神的支援を行っています。一人ひとりの人生に関わり、支えていくことは非常にやりがいがあります。

ー職場の雰囲気やよいところはなんですか。

風通しが良いところです。わからないこと、困ったことがあっても、先輩職員の方々に助けを求めやすく、安心感があります。また、困った様子であれば、周りから声を掛けていただけるような環境にあります。わたし自身も周りの方々にに対してそのように気配りができる人でありたいと常々感じています。

自分の「可能性」と「夢」を見つめて



ー将来の目標を教えてください。

交通事故による重度後遺障害を負ってしまった方一人ひとりの人生に関わり、支え続けることです。そのためには、そういった方々から信頼を得ることが必要です。日々の業務を誠実に取り組むのはもちろんのこと、組織内外で行われている研修にも参加し、知識や経験を積み重ねています。

ー最後に学生の方に向けてメッセージをお願いします。



ナスバの業務では、交通事故により重度の後遺障害を負われた方や、事業用自動車等の運転者、事業用自動車の安全運行を管理する運行管理者など、様々な方に関わります。業務内容も多岐にわたり、それら全てを身につけるには努力を要します。しかし、目の前の方への思いやりや、学ぶ気持ちがあれば、誰でも活躍できると思います。

将来、皆様と一緒に働ける日を心待ちにしております！

自己紹介

休日は、基本的にはアニメや映画を観るなどまったりと過ごしています。

しかし、旅行も好きで、ふらっと国内旅行を行うこともあります。新幹線や日頃乗ることの無い特急列車を予約してみたり、敢えてそういったものを使わずに車窓をぼーっと眺めたり。楽しいことはいろいろ体験してみたいなと思っています。

